

# 名城大学機械会誌

## 発行所

名古屋市天白区塩釜口1丁目501番地  
 名城大学理工学部機械工学科内  
 名城大学機械会  
 TEL (052) 832 - 1151 (代)  
 FAX (052) 832 - 1235  
 URL: <http://meijo-kikaikai.jp/>

## 名城大学機械会 第 66 回総会のご案内

下記のように第 66 回総会を開催します。  
 会員諸氏の多数のご出席を心よりお待ちしております。

名城大学機械会 会長 大野 達也

- 日 時** 令和 5 年 6 月 11 日 (日) 9:00 ~ 9:50
- 場 所** 名城大学天白キャンパス 共通講義棟北館 N402 教室
- 次 第** 司会者、開会の辞、会長と学科長の挨拶  
 議長団選出 (議長・副議長・書記・議事録署名者)  
 議事 ・令和 4 年度事業報告  
 ・令和 4 年度会計報告及び監査報告  
 ・令和 5 年度事業計画案  
 ・令和 5 年度予算案  
 ・その他

- ☆理工同窓会 記念講演・・・10:30 ~ 11:50 共通講義棟北館 N101 (名城ホール)  
 講師・・・名城大学 理工学部建築学科  
 佐藤<sup>のぶたけ</sup>布武 助教 (建築計画)  
 演題・・・「地域の建築文化の継承と暮らしの再考」  
 — コモンズをめぐる復興まちづくりと地域活性化の試みから
- ☆理工同窓会総会・・・11:55 ~ 12:45 共通講義棟北館 N101 (名城ホール)  
 ※懇親会は中止とさせていただきます。



名城大学正門アプローチ 令和5年4月

## 令和5年度に向けての思い

名城大学 機械会 会長 大野 達也  
昭和58年卒



機械会会員の皆さま方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、機械会の活動にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。しかしながら、この2年間におきましては、コロナの影響により機械会活動はほぼ休眠に近い状況であり、機械会としての活動が出来ず、大変心苦しく思います。

令和3年度、4年度と機械会総会も対面にて開催できず、また、学内準会員との対面による情報収集活動も出来ませんでした。更には、卒業パーティーも開催されず、卒業生の門出へのOB会としての激励参加もできない状況の中、ひたすら、我慢をしてきた年だったと思います。

令和5年度を迎え、コロナとの共存にも慣れてきて、あらゆる分野にて、新たな活動が始まって来ています。機械会としても今年度は、コロナ禍前以上の活動を実施していきたいと考えています。

機械会の方々が学生時代慣れ親しんだ、2号館・3号館も竣工から55年がたち、昨年より取り壊しが始まり、新たに、全学共用棟(仮称)の建設が始まり、大学も新たに変わります。私たちも時代の移り変わりとして、新しいことに挑戦をし続けなければいけないと思っています。

機械会も昨年、研究実験棟Ⅳ竣工に伴い、機械工学科の研究環境支援のための寄付も実施致しました。今までの実習工場に比べてとても整然としてきれいな環境にて実習が出来る環境が整ったと思います。機械会

会員の方々も、ぜひ新しい大学の変化を実感して頂くために母校を訪問し見学して頂きたいと思います。

名城大学も歴史の節目として、2026年に開学100周年、機械会も2027年には機械会設立70周年を迎えます。それぞれに対して、感謝をこめ様々な支援、企画を考えていきます。

また、機械会会員多くの方々の支援、ご鞭撻、ご協力は必要不可欠です。様々なご意見を頂きたいと思います。今まで以上に機械会会員の意見を吸い上げたいと思います。そのためには機械会のホームページにアクセス頂き「お問い合わせ」に多くの意見を頂くと共に希薄になりつつある卒業生のネットワークを大切にしていきたいと思います。特に平成卒業・令和卒業の若い人に評議員になっていただき、卒業生より多くの意見を収集し、機械会へ提案して頂くことをお願いいたします。また、他の学科OB会との交流も実施することにより、卒業生へのサービスの在り方等を見直ししていきたいと思います。

コロナはまだまだ終息せず、いつ何時、事態が変わるかもわかりませんが、皆様方からの機械会活動を盛り上げるたくさんのご支援をお願いするとともに、会員および会員ご家族の皆様、大学従事者の方々、在校生の皆様の益々のご活躍・ご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

### ■■■■■ 機械会からの重要なお知らせ ■■■■■

#### 「名城大学機械会誌」の送付について

機械会では、毎年発行している会誌を平成28年度より、機械会ホームページにて印刷出力可能な様式で公開しております。

卒業後、3年間は住所が校友会の名簿に登録されている方全員に会誌を送付しています。卒業後4年目以降は会誌送付の継続をご希望される方だけに送付しています。会誌送付を希望される方は直接機械会事務局または、機械会HPの『問い合わせページ』から、「機械会誌の送付」とご記入のうえお申込みください。

機械会HP <http://meijo-kikaikai.jp/>

## 機械工学科の近況報告

機械工学科

学科長 大島 成通

令和 5 年度から新たに学科長を務めさせていただきます大島です。日頃から機械会の皆様には温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。簡単ではございますが、以下に近況を報告させていただきます。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが、5 月 8 日から「5 類感染症」となり、キャンパスでもマスクを外した学生の明るい顔が一部見られるようになって来ておりますが、まだまだ感染で講義を欠席する学生は一定数おり、コロナ禍前の状態に完全には戻ってはいない状況です。機械工学科の授業はコロナ禍初期の半期のみリモートでしたが、それ以降は殆どの講義は千鳥配置・換気で感染対策をしたうえでの対面講義で行われてきましたので、「5 類」移行前後での講義形態等に変化はありませんが、研究室活動などコミュニケーションを必要とする活動は、明るさと活発さが戻って来たように感じられます。また、遠隔講義用に導入された Web での講義資料提供および掲示板機能をもった WebClass や、講義録画システムも学生の利便性向上に大変役立っております。また現在も、諸会議の一部がリモート会議で行われるなど、場所を選ばず会議等が行えるようになったことや、これまで当然の様に行われていたことを見直すきっかけができたことなどは、コロナ禍がもたらしたことでしたが、これからもこれまでの慣習にとらわれることなく改革すべきことは積極的に取り組んでいこうと考えております。

さて、現在機械工学科は教員数 15 名で、今年度から中西淳先生が教授に昇任され、教授 10 名、准教授 3 名、助教 2 名の構成となっております。入学定員は変わらず 125 名ですが、2023 年度入学生向け入試（2022 年度実施）においても、全国的に機械系不人気の情報もたらされる中、昨年度入試に続いて 150 名足らずの入学者があり、入学者数を定員に近づけることにたいへん苦勞しております。また、今年は 103 名の学生が卒業し、新たに機械会の会員に加わりました。就職活動や進学に関しても状況が大きく変化してきており（就職状況のページで説明）、コロナ禍の影響か、今後のトレンドなのか等も見極めて学科として対応していく必要を感じております。

理工学部においては、令和 4 年に情報工学科が理工

学部から独立し、情報工学部を設置しました。情報工学部完成年度には、理工学部は 10 学科 + 教養教育科体制となるところですが、更に理工学部も入学定員の変更と改組の検討がなされております。今後の検討状況により、改めまして皆様に報告できればと思います。

天白キャンパスにおきましては、昨年 3 月に旧 4 号館跡地に竣工した研究実験棟 IV に 2 号館・3 号館・12 号館機能が移転し、機械会の皆様にとって慣れ親しんだ 2 号館・3 号館は解体工事がすすんで、執筆時（5 月中旬）には 3 号館と 2 号館の北側が既になくなり、工事現場の横を通るごとに寂しさが増えています。跡地には 2025 年 7 月の完成を目指し、全学共用棟（アリーナ）が建設される予定で、体育の授業やクラブ・サークル活動で使用する他、入学式や卒業式などの式典も行える施設となる予定です。更に、隣接するクラブハウス棟も新たに建設予定で、学生たちの新たな活動拠点となるでしょう。2026 年に開学 100 周年を迎える本学の新たな顔となる施設ですので、完成後にはぜひとも足をお運びください。

また、機械会におかれましては、研究実験棟 IV への移転に際しまして、「レーザー加工機、TIG 溶接機、汎用旋盤向け安全対策、PC および富士精工様からのフライス盤のご寄付の移設費」等の実験実習・研究活動充実のためのご寄付を賜りました。この場をお借りして、機械会の皆様に厚く御礼申し上げます。

今後、社会の変化に対応しながら、機械工学科教員一同、教育と研究に着実な改善を積み重ね、社会に貢献・活躍できる学生を育てていくことが私どもの使命と考えており、機械会の皆様の一層のご支援・ご指導のもと努力して参りたいと存じますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

## 2022年度の就職状況

機械工学科 就職・進路支援委員

大島 成通

2022年度は、2021年度よりも更に選考（内々定）が早まった年であったという印象です。夏の長期インターンシップやその後のインターンシップ等への参加者には早期選考の案内があり、かなり早い段階で内々定を頂いた学生が多くいました。特に院生の早期選考が顕著だったといえます。また、学校推薦の時期が成績確定後にしか行うことが困難なことから、学校推薦の選考前に内々定が出ていることと、早期選考での内々定者に後付推薦を求める企業が多いことなど、学生の囲い込みともいえる状況が多くなってきていることから、学校推薦の形骸化がすすんでしまう恐れが出ております。

また、大学に面談に訪れる企業様は主に中小規模の企業の担当者様で、「できれば名城大学機械工学科の卒業生を採用したい」との多くの求人いただきました。幅広い業界において機械工学技術者が求められており、本学科はそのような人材養成機関として社会的に期待されていることが伺えます。本学科がこのように社会的に高い評価を頂けるのも、ひとえに本学科卒業生の皆様のこれまでの御活躍による賜物と考えられます。学科就職担当教員として学科を代表してここに感謝申し上げます。

しかしながら、2022年度は前年と比べて、学生から人気の同一企業に複数の学生が内定する傾向も顕著となっており、中小企業様は、より人材確保に苦勞される年となりました。

2022年度就職希望者の就職内定率は大学院、学部共に100%即ち就職希望者全員の進路が決定されました。就職先は、大部分が製造業であり、自動車関連業種、工作機械メーカー等への就職が目立っております。また、大学院への進学者は31名（昨年度42名）でした。大学院進学率で見ると、2022年度は30%（昨年度41%）であり、当学科の平均的な進学率（概ね20%から30%の間）となりました。ただし、本学大学院へは25名の進学にとどまり、減少傾向にあります。特に以前は成績上位の学生が大学院へ進学しておりましたが、優秀な学生ほど早期選考で内々定いただき、研究室に配属されたときには既に進学ではなく就職を決めている状況となっております。学科として今後なんらかの対応をとれなければならぬと考えております。より多くの学生が大学院へ進学し、高度な学問を身につけた上で将来に亘って高度技術の最前線で活躍頂くことを強く期待しています。

今後も社会から必要とされる機械技術者たる人材を輩出することが当学科の責務と捉え、それに向けて教員一同今後も努力を続けていきたいと決意を新たに致しております。

最後に主要な就職先企業を掲載すると共に、機械会の皆様には今後とも変わらぬ御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

「大学院」

トヨタ自動車株式会社、トヨタ紡織株式会社(3)、豊田合成株式会社(3)、株式会社豊田自動織機、株式会社アイシン、株式会社SUBARU、株式会社マキタ(4)、リンナイ株式会社(2)、イビデン株式会社、ソニー株式会社、三菱電機株式会社、日本車輛製造株式会社、ジェイアール東海情報システム株式会社、株式会社ジェイテクト、小島プレス工業株式会社、朝日インテック株式会社、東海光学株式会社、東芝テック株式会社、株式会社ノリタケカンパニーリミテド、ナブテスコ株式会社、株式会社ALBERT、株式会社山田ドビー、株式会社中電シーティーアイ、株式会社日立プラントコンストラクション、ウメトク株式会社

「学部」

株式会社アイシン(3)、アイコクアルファ株式会社(2)、CKD株式会社(2)、トヨタ紡織株式会社(2)、村田機械株式会社(2)、大同メタル工業株式会社(2)、パーソルR&D株式会社(2)、フタバ産業株式会社(2)、株式会社タマディック(2)、豊生ブレーキ工業株式会社(2)、日鉄精圧品株式会社(2)、株式会社デンソー、KYB株式会社、NDS株式会社、アサヒフオージ株式会社、イズミ工業株式会社、イビデン株式会社、オーエスジー株式会社、シンフォニアテクノロジー株式会社、セイコーエプソン株式会社、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社、ディーピーティー株式会社、デンソーテクノ株式会社、トヨタテクニカルディベロップメント株式会社、ドリームデザイン株式会社、ヤマザキマザック株式会社、愛知時計電機株式会社、株式会社アーレスティ、株式会社アテック、株式会社アドヴィックス、株式会社アンセイ、株式会社シーアールイー、株式会社シーテック、株式会社システムリサーチ、株式会社ソディック、株式会社トーエネック、株式会社ビーネックスソリューションズ、株式会社メイテック、株式会社興和工業所、株式会社三五、株式会社小糸製作所、株式会社新居浜鉄工所、株式会社大隈技研、株式会社東精エンジニアリング、三菱電機エンジニアリング株式会社、住友電装株式会社、住友理工株式会社、新日本金属工業株式会社、竹田設計工業株式会社、日本ドライケミカル株式会社、日本車輛製造株式会社、豊栄工業株式会社、豊田通商システムズ株式会社、豊田鉄工株式会社、豊和工業株式会社、矢崎創業株式会社、林テレンプ株式会社、名古屋市役所、

進学：名城大学大学院(25)、名古屋大学大学院(4)、岐阜大学大学院、電気通信大学大学院

## トピックス

## 理工学研究科の島ノ上諒さんがロボティクス・メカトロニクス 講演会 ROBOMECH 2021 でベストデモンストレーション賞



受賞者 島ノ上 諒さん（理工学研究科 機械工学専攻 修士 2 年生 池本研究室）  
 受賞名 ロボティクス・メカトロニクス 講演会 ROBOMECH 2021  
 ベストデモンストレーション賞

受賞日 2022 年 6 月 2 日

受賞テーマ

環境に遍在するモノを活用したカムフラージュ水中ロボットの開発

本賞は、2021 年 6 月 6～8 日に開催された日本機械学会主催ロボティクス・メカトロニクス講演会 ROBOMECH 2021 でのポスター発表にて、ロボット実演が評価された発表を対象に選出される賞です。1,132 件の発表件数のうち、4 名の受賞者のうちの一人として選ばれました。

本研究では、エイのような柔らかい水中ロボットを開発しました。開発したロボットは自力での遊泳や砂に潜ることができます。海中の生態系にやさしい動作が可能で、レアアースの探索デバイスや低エネルギーで移動可能な水中ドローンへの適用が期待されます。本講演会はオンライン開催でしたが、リモート・リアルタイムでのロボットデモンストレーションの再現性が高く評価されました。

## 理工学部機械工学科の花山竜大さんが日本設備管理学会東海支部学生研究発表会で支部長賞



受賞者 花山 竜大さん（理工学部機械工学科 4 年、成田浩久教授研究室）  
 受賞名 一般社団法人日本設備管理学会東海支部 令和 4 年度学生研究発表会  
 支部長賞

受賞日 2023 年 2 月 24 日

受賞テーマ

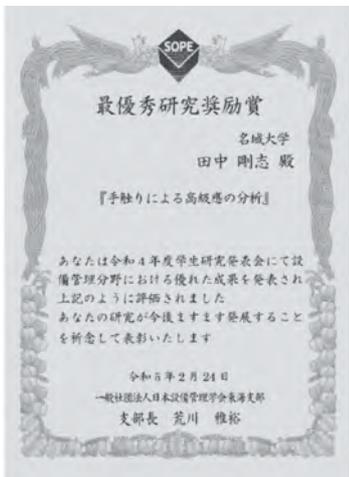
金型組み立て時の技能解明

本研究では、射出成型金型を組み立てる際の技能を伝承するために、力の測定と、動画の撮影を行い、熟練者と非熟練者の比較を行うことで技能の特徴の分析を試みました。その結果、姿勢や金型の持ち方、各指の力の加え方、金型の上下左右方向への力のかけ方の特徴を明らかにし、熟練度合の評価指標を提案することができました。

この発表が設備管理・ものづくり分野に関する優れた研究発表として認められました。

トピックス

理工学部機械工学科の田中剛志さんが日本設備管理学会東海支部学生研究発表会で最優秀研究奨励賞



受賞者 田中 剛志さん（理工学部機械工学科4年、成田浩久教授研究室）  
 受賞名 一般社団法人日本設備管理学会東海支部 令和4年度学生研究発表会  
 最優秀研究奨励賞  
 受賞日 2023年2月24日  
 受賞テーマ  
 手触りによる高級感の分析

本研究では、試料を触る時の動摩擦係数や力の挙動、振動成分の計測と触る時の動作を撮影し、高級感を感じさせる要因を明らかにすることを目的に、5種類の試料（絹、カシミヤ、麻、綿、ナイロン）を対象に研究を行いました。実験後は、アンケートを実施し、サーストーン法により高級感を尺度化して各パラメータとの関係を検討しました。その結果、平均動摩擦係数は影響しないこと、人が持つ機械受容器のうち、パチニ小体が反応する200Hz付近の振幅スペクトルの大きさが重要であることが明らかとなりました。

この発表が設備管理・ものづくり分野に関する優れた研究発表として認められました。

理工学研究科の土田将也さんが日本機械学会東海支部でベストプレゼンテーション賞



受賞者 土田 将也さん（理工学研究科機械工学専攻 修士課程1年、池本研究室）  
 受賞名 日本機械学会東海支部 第72期講演会 ベストプレゼンテーション賞  
 令和2年度学生研究発表会 最優秀奨励賞  
 受賞日 2023年3月10日  
 受賞テーマ  
 多脚ロボットにおける身体うねり運動の自発生成に関する研究

この賞は日本機械学会東海支部・講演会講演会において、優秀な研究・講演を行った講演者に顕彰されます。今回、受賞者の土田さんは、12個のスマート・サーボモータを使った12脚のムカデロボットを製作し、そして歩行制御を行いました。平面を移動する際、身体が自在にうねる現象が観察されました。開発したムカデロボットは、それぞれの脚における角度、角速度、角加速度、及び回転負荷といった、モータの状態を、高速で並列に計測・記録することが可能で、さらに、計測したデータをもとにオンラインで制御が可能です。本発表では、意図的に特定の脚の動きを故障させた際の身体の動きの変化を分析しました。本受賞では、研究成果とともに、発表における研究意義の丁寧な説明や質疑が評価されました。今後は、機械学習などを通じて故障から自律復帰するロボット設計工学を探索する予定です。



## 第 16 回機械会受賞のことば

中西ゼミ  
大藏 芳斗



この度は機械会賞という栄誉ある賞を賜りましたこと、大変光栄に感じております。機械工学科に入学して以来、私は社会に大きく貢献できるような技術者になることを目指して日々勉学に励んできました。その 4 年間の学生生活では楽しかったことや大変だったことも含めて様々なことを経験しましたが、その中でも特に印象に残っている出来事として最後の 1 年間で取り組んだ卒業研究が挙げられます。

卒業研究は今までの勉強とは全く異なるものでした。初めて行う研究という活動を前に何をすれば良いのかと戸惑ってしまったことを覚えています。研究を進めようとして間もなく、自分には多くのことが足りていないのだと実感しました。それは自分から動く主体性や知識を活かすための発想力、物事を多角的に見るための視野の広さなど、今までの受動的な勉強では身につかないことでした。最初は自分の能力不足に挫折しそうになりましたが、毎日研究室へ行き、先生や先輩方からご助言を頂くことで少しずつ研究を進めることができました。先生や先輩方という具体的な目標と少しずつ成長できたという実感、そして研究を最後までやり遂げたという達成感を得られたこの 1 年は私にとって掛け替えのないものとなりました。

今回、このような賞を頂きましたのも、親切に指導して下さった中西先生をはじめ、熱心に授業をしていただいた機械工学科の先生方、研究に対するご助力、ご助言を頂いた先輩方、共に勉学に励んだ友人、そして生活面を支えてくれた家族など多くの方々の協力があったの結果であると感じております。この場をお借りして、皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。大学、大学院を卒業し、社会人になった後も様々な困難が待ち受けていると思いますが、学生生活や研究活動で得た自信と今回頂いた賞を誇りに、自立した技術者として社会に大きく貢献できるような人材となれるように日々精進する所存です。最後に、名城大学機械会の今後の益々のご発展を心よりお祈り申し上げて受賞の挨拶とさせていただきます。

### 機械会賞の第 11 回から 15 回の受賞者

第 11 回 平成 29 年度		第 14 回 令和 3 年度	
氏 名	所属研究室	氏 名	所属研究室
新實 和真	来海ゼミ	神谷 友彰	清水ゼミ
第 12 回 平成 30 年度		第 15 回 令和 4 年度	
氏 名	所属研究室	氏 名	所属研究室
天野 竜太	来海ゼミ	天弘 篤秀	アブラハゼミ
五藤 彰広 (特別賞)	成田ゼミ		
北本 真一郎 (特別賞)	アブラハゼミ		
第 13 回 令和 2 年度			
氏 名	所属研究室		
中嶋 優人	中西ゼミ		

## 令和4年度 名城大学機械会事業報告（案）

令和4年度の事業経過は以下の通りです。

1. 評議員会の開催（出席者11名）
    - ・日時：令和4年6月4日（土）18：00～
    - ・会場：校友会館第一会議室
  2. 名城大学機械会誌第56号を発行し、機械会ホームページに掲載  
あわせて、正会員の郵送希望者および準会員（在校生）へ配布
  3. 令和4年度卒業生103名へ記念品を贈呈  
（卒業記念パーティー中止のため、パーティーへの援助を記念品の贈呈に変更）
  4. 令和4年度機械会賞を中西研究室・大蔵<sup>おおくら</sup>芳斗<sup>よしと</sup>君へ授与  
（機械会特別賞については応募者なし。）
  5. 第14回機械会杯ゴルフ大会  
開催日：令和4年年8月27日（土）  
コース：伊深の森カントリークラブ
  6. 機械工学科への支援
    - ・購入支援
      - モバイルワークステーション
      - ポータブル TIG 溶接機
      - CO2 レーザー加工機
    - ・汎用旋盤向け安全対策支援
    - ・寄付設備移設費支援
- 他

なお、計画では上記事業の他、令和4年度事業計画案として下記事業も計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が収まらず、やむを得ず実施を中止をいたしましたことをご報告致します。

※中止となった事業案

1. 令和4年度第65回総会
2. 名城大学機械会杯 & 機械工学科長杯争奪ソフトボール大会への援助  
（ソフトボール大会未開催のため）
3. 機械工学科教員と機械会役員との懇談会
4. 各研究室のゼミ長と機械会役員との懇談会
5. 在校生を対象としたキャリア事業
6. 機械工学科外部評価委員会の活動への参画
7. 理工同窓会および各学科同窓会主催行事への参加

## 令和5年度 名城大学機械会事業計画（案）

本会会則に掲げる本会の目的達成に必要な事業を行うほか、本年度は特に次の事業を中心として活動する。

1. 令和5年度第66回総会
  - ・日時：令和5年6月11日（日）9：00～
  - ・会場：名城大学共通講義棟北館 N402 講義室
2. 評議員会・役員会
3. 名城大学機械会誌第57号を発行し、機械会ホームページに掲載  
あわせて、正会員の郵送希望者および準会員（在校生）へ配布
4. 名城大学機械会杯&機械工学科長杯争奪ソフトボール大会への援助
5. 令和5年度卒業記念パーティーへの援助
6. 機械工学科教員と機械会役員との懇談会
7. 各研究室のゼミ長と機械会役員との懇談会
8. 在校生を対象としたキャリア事業開催
9. 機械工学科卒業生への機械会賞及び機械会特別賞の贈呈
10. 機械工学科外部評価活動への参画
11. 第15回機械会杯ゴルフ大会の開催  
日時：令和5年8月26日（土）  
コース：さくらカントリークラブ
12. 理工同窓会および各学科同窓会主催行事への参加
13. その他、本会の目的達成に必要と認められる行事

## 令和4年度 名城大学機械会 会計報告案

(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日) [単位:円 消費税込み]

科 目		予 算	決 算	備 考
収入の部	前年度繰越金	297,710	297,710	
	新入会員会費	1,060,000	1,000,000	令和4年度卒業生 100名分
	理工同窓会援助金	220,000	197,600	助成金
	繰入金	2,400,000	1,900,000	* 運営資金積立金より繰入れ
	雑収入	0	0	寄付, 利息等
合 計		3,977,710	3,395,310	
支出の部	会誌発行費	348,000	370,359	第56号印刷代等
	行事費	600,000	308,515	卒業記念品代等
	会議費	250,000	16,650	臨時役員会(1回) * 交通費含む
	事務費	60,000	0	
	HP/ウェブサイトメンテ費	133,000	132,165	HP/ ウェブサイトメンテナンス保守費用
	運営資金積立金	0	0	
	予備費	86,710	0	
	機械工学科支援費	2,500,000	2,474,530	* 機械工学科に対する援助費
	計	3,977,710	3,302,219	
	次年度繰越金	0	93,091	
合 計		3,977,710	3,395,310	

・運営資金積立金現在高  
13,487,736 円  
 ・名城大学「機械会賞」基金  
1,991,255 円  
 (令和5年 3月 31日 現在)

会計監査報告  
 種々調査の結果、収支ともに相違なきことを証明します。

会計監査 中村達郎 ㊞  
 水野謙治 ㊞

## 令和5年度 名城大学機械会 予算案

(自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日) [単位:円 消費税込み]

科 目		予 算	備 考
収入の部	前年度繰越金	93,091	
	新入会員会費	1,160,000	116名[令和5年度卒業予定者]
	理工同窓会援助金	220,000	下部組織助成金
	繰入れ金	400,000	* 運営資金積立金より繰入れ
	雑収入	0	寄付, 利息等
合 計		1,873,091	
支出の部	会誌発行費	348,000	第57号印刷, 機械会封筒代, 郵送代
	行事費	600,000	学生行事援助等
	会議費	250,000	評議員会, 役員会, 編集会議, 各種委員会等
	事務費	60,000	事務用品, はがき, 郵送費等
	HP/ウェブサイトメンテ費	133,000	HP/ ウェブサイトメンテナンス保守費用
	70周年記念積立金	400,000	* 設立70周年記念事業のための積立金
	予備費	82,091	他同窓会交流会祝儀等
合 計		1,873,091	

# 第15回 名城大学 機械会 ゴルフ大会の募集

拝啓 会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。  
さて、機械会会員相互の交流を図ることを目的に、学内の先生方にも参加  
頂き、下記の要領にて開催しますので、ご参加下さい。

記

- 1.日時：23年8月26日（土）
- 2.場所：さくらカントリークラブ (<http://www.sakuracc.jp>)  
〒505-0306 岐阜県加茂郡八百津町上飯田1488 TEL: 0574-43-1100
- 3.交通：可児・御嵩ICより8km、約15分（詳細はゴルフ場HP参照）
- 4.費用：¥12,800/人、個人の参加費は不要。各自精算（Credit Card利用可）  
セルフプレー・利用税・カート代・賞品・昼食+3Drink・パーティ時Coffee Setを含む
- 5.ゴルフルール：Wペリア方式（Double Peria） Hcp上限36

男子tee	満70歳未満は白	満70歳以上、80歳未満は緑	80歳以上は赤
-------	----------	----------------	---------

順位賞、特別賞は後日の「ご案内（組み合わせ表）」にて連絡します。

- 6.参加人員：32名（Out4組、In4組の同時スタート）
- 7.申し込み方法：メール（定員になり次第、締め切ります）

申し込み先	メールアドレス	携帯電話
森澤 厚	<a href="mailto:morisawa@ukai-s.co.jp">morisawa@ukai-s.co.jp</a>	090-5115-6472
野尻一男	<a href="mailto:nojiri-k@xj.commufa.jp">nojiri-k@xj.commufa.jp</a>	090-2948-0242

申し込み時、氏名、卒業年度、生年月日を明記して下さい。



可児・御嵩ICからさくらCCまでの道

以上